新　刊

□土田勝義・横内文人：**しなの帰化植物図鑑**
A5 版．223 pp．2007．￥2,000．信濃毎日新聞社．ISBN: 978-4-7840-7061-9.

カラー写真図鑑が105頁を占め，1頁1種類について，産状，語源，原産地，特徴，類似種との区別点などが列記されている．37頁にわたる信州の帰化植物目録では445種類がリストされ，原産地，日本への渡来時期などが述べられている．各地の帰化率を市町村役場のフロラで代表させる試みは，調べやすいことと，日本全域に応用がきくという点で，面白いアイデアだが，近頃のような大合併ばやりになると，「役場」の選択に気を配る必要がある．このほか，国内帰化植物，帰化植物の駆除，日本から外国へ行った植物，などの見出しがある．

わが国のフロラに対する帰化植物の影響が次第に強まりつつあることは近ごろ認識されるようになってきたので，今後は標本や視認記録の引用，とくにそれらの産地と日付は，進入・盛衰を跡づけるために，帰化植物目録には欠かせない項目となるだろう．もはや「新しい」「珍しい」「有害な」植物としてのみ捉えるだけでは，間に合わないと思う．

（金井弘夫）

□大場秀章（監修・解説）：**シーボルト日本植物誌**　文庫版．350 pp．2007．￥1,400．ちくま学芸文庫．ISBN: 978-4-480-09123-9.

シーボルトの Flora Japonica の図版をカラー縮刷して見開きに配し，その裏面に解説を記したものである．大場氏はシーボルトを従来の「近代日本植物学の父」という立場に加えて，オランダの海外政策の先兵，そしてヨーロッパ園芸への日本植物の導入者という解釈を強調しており，本書の前書きや解説にもそれが述べられている．本書では150図版のすべてについて，原本の記述の翻訳ではなく，シーボルトの学識の評価や，特に日本人絵師（主に川原慶賀）の下絵が，欧州の製版画家によってアチラ風に描き改められたために，写実性が損なわれたことについての批判が各所に見られる．植物画流行のご時世に，大いに参考になることだろう．

縮刷なので部分図は見にくいが，これだけ有名な図版を一挙に解説つきで目にすることができるのだから，文句は言えまい．ただし，紙質が厚いので頁を開きにくいうえ，電車の中で読みかけで中断するときに，ちょっと頁の端を折るということはやれない．栞紐が二，三本あるとよかった．

（金井弘夫）

第82巻4号正誤　Errata in Vol. 82 No. 4

ページ（*Page*）	カラム（*Column*）	行（*Line*）	誤（*For*）	正（*Read*）
227	Left	↓ 1	densely densely	densely longer
230	Right	↑ 17	A. R. Vivkery	A. R. Vickery